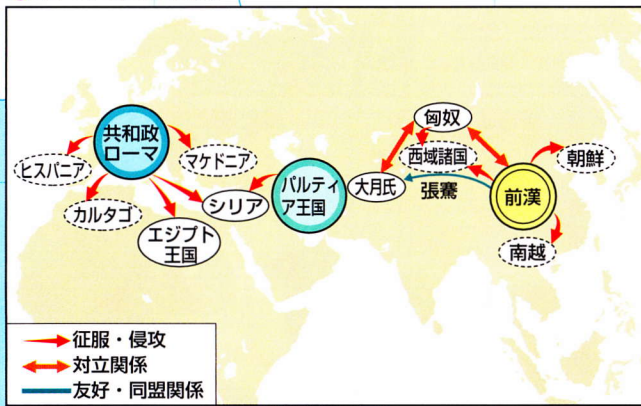


前2世紀の世界



●前2世紀の概観



①東アジアでは、前漢が武帝の治世下に最盛期(西域・朝鮮・ベトナムを支配)
 ②地中海世界では、共和政ローマが東地中海のシリア・エジプト王国へ進出
 ③西アジアでは、パルティア王国が東西貿易で繁栄

世紀	前3	2	1
カルタゴ	共和政ローマ	マケドニア王国	ヘレガモン王国
エジプト王国	セレウコス朝シリア	パルティア王国	マウリヤ朝
匈奴	大月氏	張騫	匈奴
秦	前漢	漢	漢

彌生時代

0 500 1000km



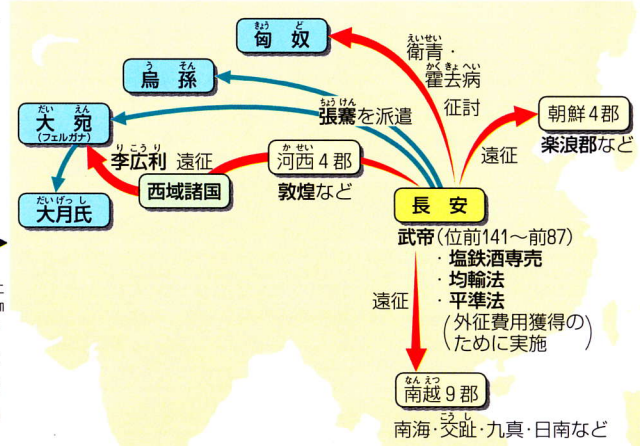
汗血馬 大宛(フェルガナ)産の名馬で1日千里(実際は400km程度)を走り、血のような汗を流すという。



後漢書出土 銅製、高さ34.5cm

解説 西域とは、狭義には今の東トルキスタン(タリム盆地周辺のアオアシス国家群)を指す。中国では漢代以後、西域経営は北方遊牧民との軍事、通商上から重視された。

1 武帝の対外政策



2 中国に伝わった西域の産物

- 胡麻 (ごま)
- 胡豆 (えんどうまめ)
- 胡椒 (こしょう)
- 胡瓜 (きゅうり)
- 胡桃 (くるみ)

解説 張騫により西域諸国との間の使者や商人の往来が激しくなり、西域諸国から胡麻・胡豆・胡椒・胡瓜・胡桃・胡蒜・葡萄・うまごやし・アラビア馬などがもたらされた。一方、中国からは絹が輸出され、遠くローマまで運ばれた。

張騫(?~前114) 匈奴に故地を追われた大月氏と匈奴挾撃の同盟を結ぶため、武帝の命で前139年長安を出発。匈奴に11年抑留されたが脱走。同盟は不成立であったが彼により西域事情が判明。

父を殺した冒頓単于

(位前209~前174)
冒頓は、父王が弟を後継者にしようとしたため、父王の暗殺を決意。そのため部下に騎射の訓練をし、「自分が射るものをその通り射ない者は斬る」と厳命して、自分の愛馬、愛妻、父王の愛馬に向かって試みた。そしてついに父王を一斉射殺し、単于(君主)になった。



胡人(北方異民族)の像 戦国時代 高さ約9cm



王昭君の悲話 — 漢と匈奴の戦い —

匈奴	中国
前4世紀頃 中国北辺襲う	時戦代国 ●燕や趙は長城を作り、備える
前3世紀末頃 冒頓単于が漢を脅かす	秦 ●始皇帝は蒙恬派遣。長城建設
前54 東西に分裂	前漢 ●高祖、白登山の戦いで匈奴に敗北→和親策採用
後48 南北に分裂	後漢 ●武帝の反撃 ●王昭君の降嫁 ●班超の活躍「虎穴に入らずんば虎子を得ず」

前漢元帝の宮女王昭君は、絶世の美女であったが、画工に賄賂を贈らなかつたため、肖像画を醜く描かれた。そのため匈奴との和親策として嫁に選ばれ送られてしまった。悲嘆のあまり、彼女は川に身を投げたという。後世悲劇の主人公として、白居易(○P73表)の詩「王昭君」や元代の戯曲「漢宮秋」(○P86表)にうたわれた。中華思想が生んだ悲話といえる。しかし実際はそんな美人ではなく、彼女自ら名乗り出たとの説もある。

王昭君(前1世紀頃) 安田毅彦画